

学校法人 北海道科学大学

2022年度 事業計画書

2022年4月1日～2023年3月31日



事業方針

学校法人北海道科学大学は、創立100周年を迎える2024年に向けたブランドビジョン『基盤能力と専門性を併せ持つ人材を育成し、地域と共に発展・成長する北海道No.1の実学系総合大学を実現します。』を定め、ビジョン達成のため、2020年度から5か年に亘る「第2期中期事業計画」を定めるとともに、各項目における目標達成に向けた今年度の取組を事業計画として取りまとめました。

本法人は今後、18歳人口の減少に伴い、大学間の競争が激しくなることが予想され、Society5.0、人生100年時代に対応した人材養成が求められている中で、より良き社会の創造と持続的発展に貢献することが必須と考え、そのためには、創立から現在に至るまでの歴史と伝統に裏付けられた実績を基に、全ての教職員が共有する本法人としての進むべき理念を改めて明確に示すべく、以下の経営理念を明示しています。

新しい価値を創造する実学系教育を通じ地域社会からの期待に応え、
一人ひとりが輝く、北海道の発展に寄与する人材を育成する。

さらに、社会環境の変化を踏まえた新たな将来像・運営方針として、右記の「HUSグランドデザイン2040」を策定しました。



本法人は創立100周年へ向けた中期事業計画を推進していく中で、今般のコロナ禍により通常のエラー活動ができない創立以来の経験を余儀なくし、社会の仕組みも大きく変化し、現状の延長線上では未来がないことを強く認識させられました。

そのような状況でも、中期事業計画を推進していくため、2022年度より単年度において法人・設置校の各部署等が優先的に課題・懸案事項に取り組む事業として、「重点実施施策」を策定しました。私たちは、社会環境の変化に柔軟に対応することで、これからも学生・生徒に選ばれ、地域社会と共に発展・成長していく高等教育機関を目指します。

2022年度は、2021年度より着手した大学の全学共通教育プログラムの改革を本格化させるとともに、高校では新学習指導要領に対応した新たな学びを開始します。

2023年4月には、高大一体教育の実現に向けて高校を前田キャンパスに移転します。

さらに、大学の図書館を全面改修し、従来の図書・情報機能に加え、能動的な学びを推進するエリアや地域の方々との交流エリアを設けることで、学生・生徒はもちろん、地域の方々にとっても「学ぶと人生をつなぐ」100周年記念会館が完成します。

私たちがブランドビジョンとして高らかに掲げた「宣言」を「実現」へとつなげ、社会からの期待に応えられるよう、「教育に情熱を」をスローガンに、教職員一丸となって取り組んでいく決意です。



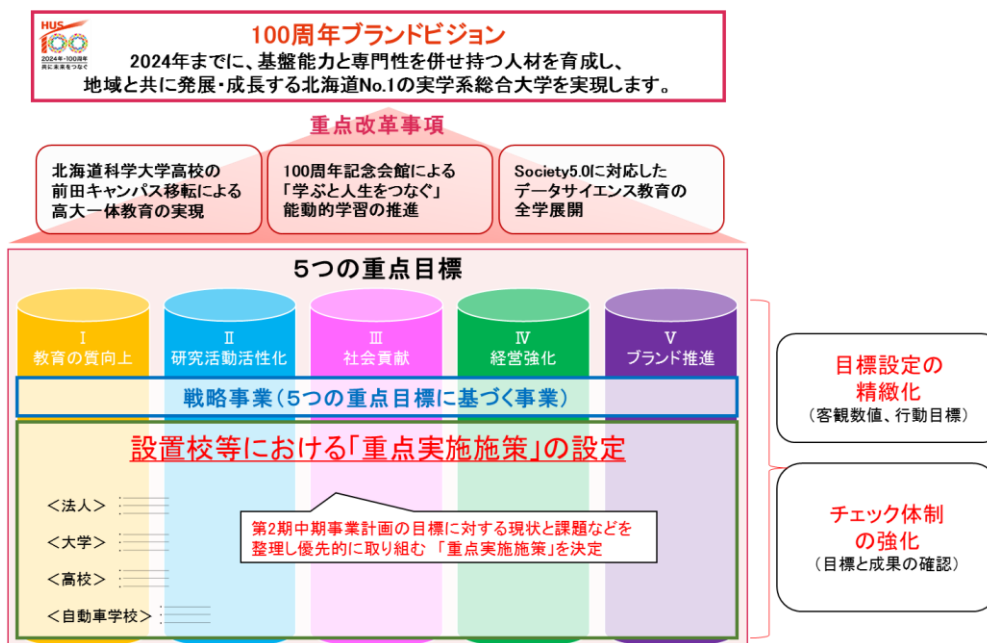
目次

1.中期事業計画及び事業計画	3
(1)第2期中期事業計画(2020-2024)について	3
(2)第2期中期事業計画(2020-2024)における5つの重点目標	3
(3)2022年度に取り組む主な事業(戦略事業及び重点実施施策)	4
【Ⅰ.教育の質向上】	4
【Ⅱ.研究活動活性化】	11
【Ⅲ.社会貢献】	13
【Ⅳ.経営強化】	16
【Ⅴ.ブランド推進】	21
2.施設整備計画	23
3.設備整備計画	24
4.学生生徒見込数	25
5.役員・評議員・教職員等の概要	28

1. 中期事業計画及び事業計画

(1) 第2期中期事業計画(2020-2024)について

法人創立100周年である2024年度に向けたブランドビジョンを実現するため、2020年度から5か年にわたる第2期中期事業計画を策定しました。



第2期中期事業計画概要図

100周年に向けた重点改革事項として、以下の事業を実施します。

- ・高校の前田キャンパス移転による高大一体教育の実現
- ・100周年記念会館による「学ぶと人生をつなぐ」能動的学習の推進
- ・Society5.0に対応したデータサイエンス教育の全学展開

上記に加え、法人及び各設置校が一丸となって取り組む「教育の質向上」をはじめとする5つの重点項目及び目標を定めており、2022年度からは5つの重点目標に基づく複数年事業である「戦略事業」に加え、設置校等における、第2期中期事業計画の目標に対する現状や課題等を整理し優先的に取り組む「重点実施施策」を策定し、目標設定の精緻化及びチェック体制の強化を行います。

(2) 第2期中期事業計画(2020-2024)における5つの重点目標

【I. 教育の質向上】

大学にあっては、建学の精神に謳われる「科学的市民の育成」により、複雑多様化、グローバル化が進展し、予測不可能な時代にあっても主体的に社会を支える人材を輩出します。

このため、「プロフェッショナル教育」の理念に基づいて、学修者本位の教育への転換を推進します。

高校にあっては、生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養の実現により、アドミッションやその後の高等教育に生かせる資質能力の育成を目標とします。

【Ⅱ. 研究活動活性化】

大学の特色を生かした、医・薬・工連携による学際的・学融合的研究の推進によるイノベーションの創出、社会還元を図ります。

【Ⅲ. 社会貢献】

地域社会の核として、産業界や地方公共団体とともに、北海道の高等教育の将来像や具体的な連携・交流方策について議論する「地域連携プラットフォーム」の構築を目指します。

【Ⅳ. 経営強化】

キャンパス再整備計画(第1期)の成果としての前田キャンパス移転、大学統合によるスケールメリット(共通の教育研究組織、事務部門の簡素・合理化等)を発揮し、運営コストを削減するとともに、限りある経営資源をⅠ.～Ⅲ.の重点領域に再配分及び集中的に投資します。

【Ⅴ. ブランド推進】

信条として掲げた「+Professional」「地域共育力」の旗印の下、100周年記念事業、ブランド推進活動、特色ある教育研究活動並びに地域貢献活動等の個別の取組を一貫したストーリーとして、以下のコンセプトに位置づけ、分かりやすく社会に発信し、認知度の向上を図ります。

- ・地域活性化に向けた取組
- ・北海道の地域課題に対応、地域資源を生かした取組
- ・本法人の歴史(レガシー)の創出・承継に向けた取組

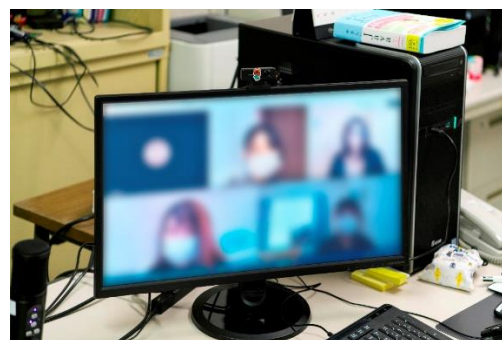
(3)2022年度に取り組む主な事業(戦略事業及び重点実施施策)

【Ⅰ. 教育の質向上】

重点目標

大学の基本理念「科学的市民の育成」、「プロフェッショナル教育の推進」を引き続き堅持し、学修者本位の教育への転換をより一層推進します。

高校にあっては、新学習指導要領に準拠した教育の展開により、アドミッションやその後の高等教育に生かせる資質能力の育成を目標とします。



遠隔授業の様子

<戦略事業>

北海道科学大学(11件)

1	工学部による先進的データサイエンス教育の推進 【工学部】
---	---

〔目標指標・数値〕「数理・データサイエンス・AI」基礎共通科目創設と全学科への講義展開、

IoT・AI・データサイエンス環境を構築する講義の整備と実施

Society5.0に対応し、地域社会の中心で活躍する人材育成のため、充実した「数理・データサイエンス・AI」教育を受けることができる環境を提供し、全ての学生が「数理・データサイエンス・AI」の素養を身につけます。また、第4次産業革命、Society5.0の中心技術である人工知能やセンサーからのデータ取得、時系列解析技術について実践を通して総合的に学ぶ講義(実験)環境の整備を行い、これらの技術を習得し社会に貢献できる学生を育成します。

2	工学系教育環境の充実 【工学部】
---	-----------------------------------

〔目標指標・数値〕AIおよびビッグデータに関する教育の実行(情報工学科)

BIMによる建築設計などの提案表現とエスキースに適した環境の整備(建築学科)

CIM時代に対応した特別プログラムの次期カリキュラムでの運用(都市環境学科)

情報工学科では「最新の知識・技術を身につける科目群」における実験環境整備並びに教材開発を目的としたPBL形式(課題解決型学習)で学ぶことのできる授業を実施します。建築学科ではBIM(Building Information Modeling)ソフトの活用を効果的な建築教育として展開するための教育環境整備をします。また、都市環境学科ではCIM時代に対応した特別プログラムを展開し、次期カリキュラム改定時に正課の授業科目として取り入れることを目標に、講義・演習方法の検討を行います。

3	建築士国家試験対応 【工学部 建築学科】
---	---------------------------------------

〔目標指標・数値〕建築士受験学修システムの構築

卒業生の1/3が一級建築士、2/3が二級建築士合格を実現する受験指導の最適化

建築士取得に優位な大学であることを地域社会が認めるようになることを目的とし、更なる合格率向上のため、スマートフォン対応のWebアプリケーションを活用した建築士受験学修システムを構築し、受験指導に活用するとともに、受験指導の最適化を図るための改善検討を行います。

4	電気自動車に関わる電気電子技術教育の推進 【工学部 電気電子工学科】
---	---

〔目標指標・数値〕受講生に対する自動車業界への就職斡旋(内定者7名)

環境問題対策として、電気電子系技術者のニーズが高まる自動車業界に対応するため、電気自動車に関わる電気電子技術の教育環境を早期に整備し、自動車業界で活躍する人材を育成します。

5	保健医療学部の教育環境の充実 【保健医療学部】
---	------------------------------------

〔目標指標・数値〕シミュレーション教育環境の構築、4年次学生80名への模擬授業実施(看護学科)

教育目的達成度(ディプロマ・ポリシーの達成度を学生が自己評価) : 3.0以上(臨床工学科)

診療放射線技師教育の改革と質の向上(診療放射線学科)

看護学科では様々な臨床の状況を想起できる教材を用いたリアリティのあるシミュレーション教育環境(遠隔医療含む)を構築し、教育を展開、臨床工学科では臨床実習前後や将来のトレーニングとしてシミュレータを導入し常設することで、心臓血管カテーテルの重点的な教育強化を図ります。また、診療放射線学科では技師教育の改革と質の向上に取組み、技師志望の意志が高い学生の掘り起こしのために、入試広報センターと連携して推薦入試の面接方法のあり方について検討します。

6	入学前から初年次教育を経て、卒業までの一貫した基礎学力強化プログラムの策定 【全学共通教育部】
---	--

〔目標指標・数値〕就職試験を視野に入れた基礎学力強化の教材の選定及び実施

一般選抜や推薦型選抜等の入試形態に関わらず、全入学生を対象とした初年次の基礎学力強化プログラムと就職試験までを考慮した継続的な学修支援体制を構築します。

7	教育系基幹システムの更新 【学生支援センター・就職支援センター・入試広報センター】
---	--

〔目標指標・数値〕入試・教務・就職データの一元化、全システムの稼働

教育系基幹システムの導入により、学生の入試、学生支援、就職の情報を一元管理するとともに、出欠状況及び成績表を保護者が確認可能となり、大学と双方から学生を見守る環境を構築することで「教育・学修の質」「学生サービス」の向上へ繋がります。

8	授業内外での学習支援、修学支援の充実 【学生支援センター】
---	--

〔目標指標・数値〕正課外学修サポートでのチュードレント・アシスタント(SA)希望調査の実施

需要に対応した制度再設計、2023年度からの適用開始

学力差拡大に対応し「学生を主体とした教育」の充実のため、正課における授業指導支援の強化と正課外における学習支援の強化を行います。

9	医療系競合対策の強化 【入試広報センター】
---	----------------------------------

〔目標指標・数値〕保健医療学部、薬学部の定員充足

4学部を持つ総合大学である本学の魅力を訴求し続けるとともに、医療系大学における競合対策として医療系を志望している生徒へ向けた広報施策(薬学部、保健医療学部の共同)を行います。

10	新入生の図書館利用による能動的学習の促進 【学術情報センター】
----	--

〔目標指標・数値〕初年次教育科目における図書館利用による能動的学習を全学科で実施

図書館を活用し、大学での学びに必要な基本的スキルを身につけ、能動的に学修する力の養成を目的に、各学科で図書館の施設・資料を用いて回答を導き出す課題を与え、学修する取組を行います。

11	アセスメント・ポリシーの実質化 【自己点検 IR 委員会】
----	--

〔目標指標・数値〕アセスメント・ポリシーの実質化に向けた自律的な点検改善サイクルの確立

2018年度に策定した学修成果の評価に関する方針であるアセスメント・ポリシーの実質化に向けて、学科(教育課程)、授業科目、学生それぞれの対象レベルに応じた評価手段を確立し、学科における自律的な点検改善サイクルが回る環境を構築します。

北海道科学大学高等学校(2件)

1	生徒の学力及び進路結果の向上
---	-----------------------

〔目標指標・数値〕3年間のコース別指導体制・計画の策定及び取り組みの可視化を図る中長期的な教員研修計画の立案及び実施

特別進学コースを中核とした3年間の計画的な指導体制(進学講習・進学イベント等)と計画を策定し、随時実施します。また、実力テスト・模試の分析を進路指導部・業者・学年会合同で行い、継続的な現状分析から計画的な指導を行います。

教員の資質向上のため、年間計画に基づく教員研修と新任研修を実施し、道内外の高大先進校視察や人事交流を通して、ミドルリーダーとなる教員育成と資質向上を図ります。

2	移転を機会とする高大連携の一層の強化
---	---------------------------

〔目標指標・数値〕HUS LINKS(高大が一体となって行う生徒サポートプログラムの総称)の個別取り組み内容の充実と外部発信の強化

HUS LINKSの生徒サポートプログラムは、高大接続プロジェクト・総合的な探究の時間に関すること・短期留学・部活動・コンカレントプログラム等で、これまでの蓄積を発展させ、同じキャンパスである利点を活かし、更に充実させます。また、その取組みをSNS等も活用、発信(年50回以上)し、プレスリリースを戦略的に行い、年間6回以上の報道・記事化を目指します。

北海道自動車学校(3件)

1	教習指導心得プロジェクト
---	---------------------

〔目標指標・数値〕教習指導心得プロジェクトにおける教習生アンケート回答(良)割合:95%

教習生が運転技術を修得しやすい教習指導方法や内容を検討し、自動車学校として指導方針等を前面に打ち出すことにより、指導員等職員全体の業務に対する意識の向上と方向性を定め、教習指導及び教育内容の強化を行います。

2	担当制の導入(研修所、他校訪問の実施含む)
---	------------------------------

〔目標指標・数値〕担当制における教習生アンケート回答(良)割合:90%

教習生に対する教習の質の向上を目的に、担当制の導入に向けた検討会及び実施事例調査の実施、担当制の教習生アンケート、入校者数の増減等による評価を行います。

3	学科教習改善
---	---------------

〔目標指標・数値〕若年層の向けの学科教習(DONDONドライブ)を導入し、学科教習において継続使用

若年層に向けた学科教習の改善及び他校との差別化を目指し、体験型学科教習教材「DONDONドライブ」を導入し、道路交通法等の理解力向上を図ります。

<重点実施施策>

北海道科学大学(12件)

1	中退率の低減 【学生支援センター】
---	------------------------------

〔目標指標・数値〕KPIで設定された2.8%以下を維持

2020年度中退率は2.5%と下がったものの、これを維持する、あるいは更なる低減に繋げるために、中退理由の深掘りを行い、中退の早期対応策に繋がります。また、中退率の高い学科への個別相談・支援が必要であることから、学生支援センターから直接的な支援を行うための体制づくりや中退理由として挙げられているミスマッチをなくすために、入試広報センターと連携して、指定校を中心に進路指導用の情報提供を行うための検討をします。

2	2024年度に向けた全学的なカリキュラム改編 【学生支援センター】
---	--

〔目標指標・数値〕2022年度前期中に枠組みを定め、各学科に新カリキュラムの検討作業を要請する

HUSスタンダードプログラム(全学共通教育プログラム)の策定、HUSコンカレントプログラム(高大接続プログラム)の制度設計を経て、2024年度から新カリキュラムを始動させるために、自己点検IR委員会と連携しながら、3ポリシーの点検、DP達成度評価の検討、CAP制の単位数設定、ナンバリングの導入、クォーター制の導入など、カリキュラム改編の枠組みを定めます。

3	奨学金制度及び表彰制度の全学的な視点に立った再構築 【学生支援センター】
---	---

〔目標指標・数値〕奨学金・表彰制度数を2023年度までに12制度以内とする

大学統合等により現在では多くの奨学金・表彰等の種類(計18制度)が存在し、学生にとってわかりにくい制度になっている懸念があることから、奨学金・表彰制度等を一体的に見直し、シンプルな制度設計になるよう再構築します。

また、学生団体へのプロジェクト支援である夢プロジェクトを個人も対象にすることや大学院修士課程の大学院生への支援も拡大することなど、制度の再構築にあわせ、支援が必要な学生に適切な支援を行い、より充実した制度を目指します。

4	サービス拡充による学生食堂の満足度向上 【学生支援センター】
---	---

〔目標指標・数値〕学生食堂(A・E・HIT)の延べ利用者数をコロナ前水準に近づける

目標数: 対面授業7割として延べ利用者数7万5千人

食堂メニューの改善や昼休み時間の有効活用、また、新たな食堂形式(キッチンカーなど)の提案・導入などについて検討・実施することで、利用者数の増大から安定的な食堂運営に繋げるとともに、学生満足度の向上を図ります。

5	学科の実情に合わせたキャリア教育の実現 【就職支援センター】
---	---

〔目標指標・数値〕1年以内の離職率10%以下

各学部学科により、就職の時期、指導内容、業界ごとの状況が異なることから、各学科の様々な実情に合わせた業界研究会、企業見学プログラム等の充実を図ることにより、学生自身が入社後の将来像を明確にイメージできる機会を提供します。

6	低学年からのキャリア教育の充実 【就職支援センター】
---	---------------------------------------

〔目標指標・数値〕1年生後期2回、2年生4回、全学年対象3回

1. 学生の就職活動が年々早期化している現状を踏まえ、学部1、2年生を対象としたキャリア教育を実施し、早い段階から就職活動を意識付けることで、実就職率向上につなげます。さらに、自己分析及び理解をさせることで、就職活動時のミスマッチを防ぎ、離職率低下につなげます。

7	能動的学修の推進に向けた電子書籍の拡充 【学術情報センター】
---	---

〔目標指標・数値〕電子書籍200タイトル以上増加

図書館改修に伴う閉館期間中においても、図書館を利用した能動的学修を推進するために、オンライン上で閲覧できる電子書籍を拡充します。

8	ティーチング・ポートフォリオ作成の推進 【FD委員会】
---	--

〔目標指標・数値〕ワークショップを1回開催

これまで、ティーチング・ポートフォリオ(TP)の簡易版といえるティーチング・ステートメント(TS)を全教員が作成する状態を目指し、TS作成ワークショップを企画・実施し、ほぼ全教員が作成することができました。2022年度中には新任教員を対象としたTS作成ワークショップを企画・実施し、また、TSの更新ワークショップについても企画します。活用方法については、全学FD・SD講演会を実施し教育改善に役立てることとし、今後はTP作成に向け準備を行います。

9	遠隔授業のスキルアップを目的としたFD研修 【FD委員会】
---	--

〔目標指標・数値〕研修会を1回開催

2021年度に導入したハイフレックス設備を活用した教室間連携や2022年度に本格導入する新教育基幹システムによる遠隔授業の実施方法など、遠隔授業のスキルアップや授業動画コンテンツ作成を目的とした教員向け(非常勤教員も含む)の研修会を企画します。

10	新課程対応に向けた入試改革 【入試広報センター】
----	-------------------------------------

〔目標指標・数値〕2022年12月までに新入試制度を公表

2022年度からの高等学校新学習指導要領改訂により、2025年度入試は新課程で学んだ高校生が受験する入試改革年度です。これに対応するため本学入試制度の見直しを行い、2022年12月までに変更予告を公表します。

11	新ガリレオ選抜改革 【入試広報センター】
----	---------------------------------

〔目標指標・数値〕2022年12月までに新入試制度を公表

新ガリレオ選抜は、2016年度よりスタートし、先進的な選抜制度として実施してきましたが、経年とともに受験生にとっては一般的な総合型選抜になりつつあることが課題となっています。特色ある選抜とするため2025年度入試からの本選抜の改革を検討します。

12	産学連携による広報展開と学生教育 【入試広報センター】
----	--

〔目標指標・数値〕オープンキャンパス・HPでの成果発表

本学の教育における魅力や特色を伝える広報企画を学生・教職員で検討・開発する産学連携型のPBL(課題解決型学習)を実施します。また、その成果をオープンキャンパスやHPなど本学の広報活動においても活用することで、教育力・学生のパフォーマンスの観点でプレゼンス向上を図ります。

【Ⅱ. 研究活動活性化】

重点目標

大学の特色を生かした、医・薬・工連携による学際的・学融合的研究の推進によるイノベーションの創出、社会還元を図ります。



BioJapan2021参加時の様子



2021年度第1回HUS学術研究交流会ポスター

<戦略事業>

北海道科学大学(2件)

1	新研究所(CRILS)の立ち上げと研究成果の永続的な創出・発信 【研究推進・地域連携センター】
---	--

【目標指標・数値】学会発表:年5回 論文掲載:年5報

本学5番目の研究所として2020年度に新設した北の大地ライフサイエンス創生研究所(CRILS)において、地域並びに国民の健康・福祉の増進に寄与することを目的に、研究成果を確実に創出・発信し続けます。

2	道内私大トップを目指す科研費獲得ロード 【研究推進・地域連携センター】
---	--

【目標指標・数値】科研費総採択件数:120件

「北海道No.1の実学系総合大学」を達成するためには、研究力の維持・向上が必要不可欠と考え、外部資金の需要と重要性が高まる昨今の情勢に鑑み、その指標となる「科研費」の採択実績の向上を目指します。

<重点実施施策>

北海道科学大学(2件)

1	学会・シンポジウム等の積極的な招致開催 【研究推進・地域連携センター】
---	--

〔目標指標・数値〕件数:3 件／年

教員の研究活動の一環である、学会やシンポジウム等について、本学が開催費用を一部助成するなど積極的な招致開催を目指します。また、学会やシンポジウムの招致を通じて全国から研究者が来訪することで、本学の施設をアピールすると同時に、開催の様子などを学外に広く発信します。

2	HUS 学術研究交流会の開催による共同研究の促進 【研究推進・地域連携センター】
---	---

〔目標指標・数値〕2ヶ月に1回ペースで開催

分野横断型の共同研究を推進するための学内の学術研究交流会(HUS学術研究交流会)の開催回数を増やし、知的交流の機会を提供するとともに、新たな研究チームのマッチングを目指します。

また、学内へ研究内容を発信するイベントを開催することで、学際領域研究の活性化を図ります。

【Ⅲ. 社会貢献】

重点目標

地域社会の核として、産業界や地方公共団体とともに、北海道の高等教育の将来像や具体的な連携・交流方策について議論する「地域連携プラットフォーム」の構築を目指します。



2021年度まちかどキャンパスの様子



2021年度公開講座の様子

<戦略事業>

北海道科学大学(3件)

1	地域医療への貢献を目指した道内地方都市における実務実習の推進 【薬学部実務実習委員会】
---	--

〔目標指標・数値〕プログラムを受けた学生の30%以上が地域医療に関わる

地域医療を支えることを目的に、北海道内の地方都市においてモデルケースとなるような地域医療実習のプログラムを施設と共同で作成し、学生の地域医療に関する理解を深め、地域医療に従事する薬剤師を増やすとともに、就職先が薬局に偏在している現状を改善します。

2	看護実践・教育・研究に関するユニフィケーション事業 【保健医療学部 看護学科】
---	--

〔目標指標・数値〕本学教員による教育・研修会の定期的開催年2回

看護学科と複数の医療・福祉施設が看護実践・教育・研究において連携・協働し、看護ケア及び看護教育の質の向上を図ることを目的に、教育・研修会の実施や臨床看護師の研究支援等を行います。

3	「自由研究といえば北科大」を目指す ～科学やものづくりの楽しさを伝え、未来の科学者を育てるイベント特化事業～ 【研究推進・地域連携センター】
---	---

〔目標指標・数値〕大学で実施するイベントにおける各時期の5年間の参加者計700名

研究・科学のおもしろさを伝えるため、これまで継続的に実施してきた日本学術振興会『ひらめき☆ときめきサイエンス』事業に加え、小学生を対象とした未来の科学者を育てるイベントを実施します。

<重点実施施策>

学校法人北海道科学大学(2件)

1	学校法人北海道科学大学ONE TEAMでの社会貢献 【事務局 総務部、入試・地域連携部】
---	---

〔目標指標・数値〕社会貢献事例集の作成、全教職員への共有

- ・実施企画の事前告知又は実施報告の定例化
- ・2023年度から実施を想定した社会貢献を促進する施策立案

大学、高校及び自動車学校が行っている社会貢献活動について、各設置校が協働した社会貢献活動を促進する土台作りとして、以下の施策を行います。

- ・現状の各校で行っている社会貢献活動実績の整理及び取りまとめを行い全教職員に共有します。
- ・年度内に各校が社会貢献活動を行う際に教職員掲示板などを用いて情報の発信及び共有をします。
- ・教職員が社会貢献活動を活発に行うことができるような仕組み(人事制度など)の検討を行います。

2	各設置校の同窓会との協働による地域の活性化 【事務局 総務部、入試・地域連携部】
---	---

〔目標指標・数値〕同窓会地域支部総会と併せた公開講座を5回以上実施

地域への貢献と法人のブランディング事業展開を目的として、設置校同窓会の地域支部総会開催に併せて法人教職員を講師とした公開講座を開催します。

北海道科学大学(4件)

1	地域企業との連携強化 【就職支援センター】
---	----------------------------------

〔目標指標・数値〕道内就職率50%以上維持

コロナ禍において、2010年度以上に厳しい就職状況となることが予想される中、景気に左右されることのない企業との関係を構築するため、現在連携している企業との繋がりを継続しつつ、札幌・石狩以外との道内地方都市との業界団体とも連携を行います。

2	卒業生の状況把握、各種支援制度の構築(+3年ケアプロジェクト) 【就職支援センター、入試広報センター、事務局 校友課】
---	--

〔目標指標・数値〕2021年度以降の全卒業生に年1回以上のコンタクト実施

卒業生との連携を強化する観点から、卒業したゼミ担当教員から卒業後3年以内の卒業生へ連絡をとることで近況等を把握し、必要に応じて大学からサポートできる制度を構築します。

また、就職支援センターでは、離職者を把握し、再就職へのサポートを行います。入試広報センターでは、活躍している卒業生の情報を集約して広報活動等に活用します。校友課では面談した情報を管理して、必要な部署へ情報を提供することで、大学と同窓生の繋がりを充実させるとともに同窓会活動にも有効活用していきます。

3	連携自治体との新規事業の創出 【研究推進・地域連携センター】
---	---

〔目標指標・数値〕協定締結9自治体から1件以上の共同研究獲得／年

連携協定を結んでいる自治体とこれまでに行っている公開講座、まちづくり協力、有識者としての事業参加等に加え、企業も含めた事業や共同研究を新たに開拓し、外部資金の獲得や研究活動を外部にアピールします。

4	ニューノーマル時代における地域交流の展開 【研究推進・地域連携センター】
---	---

〔目標指標・数値〕40講座以上開催／年

ニューノーマル時代での「公開講座」の実施において、人数制限をした体験型及び講演型の実施体制に分け、事前申込制とした本学施設での開催について検討します。また、地下歩行空間を会場とする体験型「まちかどキャンパス」について、一部対面実施の検討を含め、大学の諸活動を広く一般に周知する「展示」をメインに据えます。さらに、時代に則したオンライン開催等も積極的に行い、オンサイトイベントの動画配信やHPと連動させたスマートフォン等での視聴を促していきます。

【IV. 経営強化】

重点目標

キャンパス再整備計画(第1期)の成果としての前田キャンパス移転、大学統合によるスケールメリット(共通の教育研究組織、事務部門の簡素・合理化等)を発揮し、運営コストを削減するとともに、限りある経営資源をⅠ.～Ⅲ.の重点領域に再配分及び集中的に投資します。



北海道科学大学高等学校の前田キャンパス新校舎イメージ

<戦略事業>

学校法人北海道科学大学(1件)

1	安定かつ多様な収入確保 100%出資会社の設立と運用 【事務局 財務部】
---	---

〔目標指標・数値〕更なる業務展開の検証、実施、学校法人への寄付金400万円

少子化等の影響による就学人口の減少及び入学定員の厳格化など、近年の私立学校を取り巻く環境は大変厳しい状況にあり、多様な収入源の確保が求められている中、100%出資会社を設立し、事業活動をとおしてその収益を学校法人に寄付することによる「新たな収入源の確保」と、学校法人の人件費等の削減を支援することによる「財政基盤の確立」を図ります。

北海道科学大学高等学校(2件)

1	前田キャンパス移転に伴う教育環境の充実
---	---------------------

〔目標指標・数値〕2022年度新校舎竣工

前田キャンパスに北海道科学大学高等学校新校舎が誕生します。このタイミングをチャンスと捉え、高校と大学の施設・設備及び人材の効率的な共用や新校舎の魅力ある活用と発信により地域社会への期待度の向上を図ります。また、大学と高校の協力による部活動や行事における様々な交流や支援など、学校生活全般での高大連携の拡大と深化を目指します。

2	高大一体となった広報活動の充実
---	------------------------

〔目標指標・数値〕北海道科学大学高等学校移転の社会認知向上と定員管理

高大連携、イベント等での魅力を発信

2023年4月の移転に向け、全てのステークホルダーへのブランドイメージの浸透及びステークホルダーごとの広報戦略について検討し、中学生・保護者・中学教員・塾関係者への広報を充実させます。また、互いの取り組みを共有し、高大の取り組みに対するプレスリリース等を含め、新聞広告・フライヤー・パンフレット等を制作し、2025年度まで一貫した広報活動を行います。

北海道自動車学校(1件)

1	送迎バス位置情報システム導入
---	-----------------------

〔目標指標・数値〕送迎バス位置情報システム導入、継続使用

スマートフォン等で送迎バス運行状況を確認することできる送迎バス位置情報システム導入し、運転手及び職員の連絡等にかかる業務の軽減、教習生へのサービス向上を図ります。

<重点実施施策>

学校法人北海道科学大学(10件)

1	寄付金募集事業推進 【事務局 財務部】
---	--------------------------------

〔目標指標・数値〕100周年記念事業寄付金2025年3月末目標額5億円(うち2022年度1.5億円)

2021年6月から募集を開始した「法人創立100周年記念事業寄付金」を主体的に募集し、2025年3月までに5億円を目標としています。ホームカミングデー、父母懇談会及び就職懇談会などの行事開催案内において寄付募集を行い寄付者の裾野を広げ、顕彰制度も確立させて、募集強化を図っていきます。また、100周年記念事業実行委員会とタイアップし、より活発な活動を推進して目標額達成を目指します。

2	予算設計と執行管理の精度向上 【事務局 財務部】
---	-------------------------------------

〔目標指標・数値〕予算執行状況の検証を補正予算編成の時期と決算時の年2回実施。

(公表については、2023年度より次年度予算編成前に結果を公表し、予算編成に反映。)

2022年度予算編成は「計画(予算)と実績(執行)の一致」を目標に、事業ごとの予算執行状況の把握を行うことで、各部局における適正な予算規模の検証や各部局から提出された補正予算の計上項目ごとの検証をし、その結果をもとに、前年度実績における次年度予算編成に反映させ、予算編成の精度をより高めていきます。

3	附属薬局の経営改善実施 【北海道科学大学附属薬局】
---	--------------------------------------

〔目標指標・数値〕大学への繰越金：500万、処方箋枚数：月2,000枚、特定薬剤管理者指導加算：月10件
かかりつけ件数：月10件、学会、紀要投稿：年3編

コロナ禍において処方箋枚数が激減したため、調剤基本料2から1への変更、地域支援体制加算の新規申請等により処方箋単価の増額を見込んでいたが、厳しい状況が続いています。附属薬局としての教育研究の役割を果たすとともに、安定した薬局経営を行うため、2022年から新たに数値目標（経営・調剤指導・研究分野）を設定し、「安定した経営」と「教育研究機関としての役割」を構成員全員の共通認識として、意識統一を図ります。

4	業務構造改革の推進 【政策室】
---	----------------------------

〔目標指標・数値〕DX、BPO、業務見直しに関する検討枠組みの設置、対応基本方針の策定及び周知
教育研究及び学生支援等の向上のため、事務局全体の業務の進め方や組織のあり方等を見直し、業務効率化の取組を推進する体制を整えます。

具体的には、①DX＜デジタルトランスフォーメーション＞化の推進、②BPO＜ビジネスプロセスアウトソーシング＞の推進、③業務の統廃合、効率運用の検討の3点について、検討枠組みを設置、全体方針の策定、個別案件の内容精査を行います。

上記に取組むことで、適切な人員配置、トータルコストの削減とより付加価値の高い業務へ注力する体制構築を目指します。

5	SDGs、カーボンニュートラル対応 【政策室】
---	------------------------------------

〔目標指標・数値〕取組方針を策定・公表、推進体制の構築

法人全体のあらゆる事業活動におけるSDGs及びカーボンニュートラルへの取組方針を策定、法人内外に共有・公表します。また、取り組みの推進体制（担当理事の任命や現行の体制の見直しなど）を構築します。取組みの一つとして、年間を通じて冷暖房の設定温度の管理の徹底及び職場における働きやすい服装による勤務といった教職員一人ひとりの省エネ行動を推奨していきます。

6	職務権限に関する規程策定 【政策室】
---	-------------------------------

〔目標指標・数値〕職務権限規程（仮称）の策定、2023年度から適用

2021年度に決裁・承認に関するプロジェクトを立上げ、各部署に現状の決裁状況や課題のヒアリングを行いました。

2022年度は上記の内容を踏まえ、事務局における課長や部長などの職位についてその権限を定め、それぞれの職位のなすべき職務と責任、権限の範囲を明らかにし、その責任体制のもとで職務を積極的に遂行することを目的に職務権限に関する規程の策定を行います。

7	高校移転実施本部の設置 【政策室】
---	------------------------------

〔目標指標・数値〕高校移転実施本部の設置、

全教職員に対する移転に関する進捗状況の共有(年6回以上)

2023年度から前田キャンパスにて新しい教育がスタートする北海道科学大学高校の移転に向け、現在設置している高校移転準備委員会を移転実施本部として改編します。

移転に関わる準備事項、検討事項に対し、情報集約、意思決定及び指示を行います。また、定期的に法人内の全教職員に移転に向けた進捗報告を行います。

8	ニューノーマル時代の働き方改革 (効率・生産性向上と安心・安全で快適な職場環境の両立) 【事務局 人事企画室、教職員課】
---	---

〔目標指標・数値〕・管理職に対し、部下育成に関する研修を実施(1回以上)

・若手職員を対象としたキャリア支援に関する研修を実施

・ブランド意識アンケート調査職場満足度に関する設問(やや不満、不満の割合 7%以下 参考20年度:8.5%)

HUSグランドデザイン2040に掲げる「時代の変化に応じて自ら変革できる組織」の実現に向け、ニューノーマルに適した新たな働き方改革として、教育研究の質向上及び安定した財務基盤を確立するとともに、様々な教職員にとって、安心・安全で快適な職場環境づくりに向けた取組を推進します。

また、上記の取組みは、一般事業主行動計画(次世代育成支援対策推進法、女性活躍推進法)に掲げる取組みと連携を図り推進していくことを念頭に実施します。

＜実施予定の施策＞

- ・若手職員を対象としたキャリア形成支援に関する取組み
- ・業務効率化に関する取組み
- ・ニューノーマルに適した安心・安全で快適な職場づくりに向けた取組み

9	人事・給与制度の検証 【事務局 人事企画室、教職員課】
---	--

〔目標指標・数値〕制度検証に着手し、見直しの必要性、重要度、緊急度を整理する。

重要度、緊急度の高いものについて改善計画を策定する

現在の人事・給与制度は、法人全体で統一的な運用を行っているものの、各設置校の規模や財政状況が異なることから、それぞれの実情に合わせた制度の転換が必要であると考えられるため、人事・給与制度の検証を行います。

10	人事考課制度の検証 【事務局 人事企画室、教職員課】
----	---------------------------------------

〔目標指標・数値〕人事考課の目的を果たす評価方法・制度であるか検証し、

23年度以降の見直し方針(案)の策定

数年間運用してきた人事考課制度について、組織の活性化や職員の能力向上、人材育成に貢献等、制度の本来趣旨に則った観点から、制度全体の検証を行い、制度運用や、考課結果を処遇・配置に適正に反映するための見直しを図ります。

北海道科学大学・北海道科学大学高等学校(1件)

1	高大教職員のコミュニケーション促進 【入試広報センター、北海道科学大学高等学校】
---	---

〔目標指標・数値〕説明会 1回、高校訪問 5回 ※1回あたり2-3学科

北海道科学大学高校から北海道科学大学への進学実績向上と高大一体化における系列校との接続システムの改善に向けて、現場レベルでの高大の相互理解・情報共有を高める必要があります。

そのために高校と大学の現場同士のコミュニケーションイベントを開催します。

(大学による高校教員へ系列校推薦説明会、少人数・複数回でセンター主任による系列校訪問)

北海道科学大学高等学校(1件)

1	北海道科学大学高校財政プランの立案
---	--------------------------

〔目標指標・数値〕2022年度内での財務プラン策定の完了

財務状況改善のため、長期視点でみた特待生制度や学費改定、人件費等の財務プランを年度内に策定します。その後も状況を関係者とのヒアリングや客観的なデータを参考にし、見直しを図り、費用対効果に見合った魅力ある特待生制度を構築していきます。

北海道自動車学校(1件)

1	自動車学校の経営改善実施
---	---------------------

〔目標指標・数値〕目標の達成に向けた毎月の進捗管理徹底

教習時間、入校者、卒業者目標に対する毎月の進捗管理、アクションプランにおける毎月の進捗管理及び外部コンサルタントとの打合せ内容について会議への報告を行い、進捗管理を徹底します。

また、未達事項に対して改善を行い、2022年度経常収支差額の黒字化達成を目指します。さらに、恒常的にPDCAサイクルをまわすことができる体制を構築したうえで、将来の在り方を検討します。

【V. ブランド推進】

重点目標

信条として掲げた「+Professional」、「地域共育力」の旗印の下、100周年記念事業、ブランド推進活動、特色ある教育研究活動並びに地域貢献活動等の個別の取組を一貫したストーリーとして、以下のコンセプトに位置づけ、分かりやすく社会に発信し、認知度の向上を図ります。

- ・地域活性化に向けた取組
- ・北海道の地域課題に対応、地域資源を生かした取組
- ・本法人の歴史(レガシー)の創出・承継に向けた取組



100周年記念会館(イメージ)



高大一体の広報展開に向けたキービジュアル

<戦略事業>

北海道科学大学(3件)

1	インフラ映えフォトコンテスト開催による認知度向上 【工学科 都市環境学科】
---	---

〔目標指標・数値〕入学生の認知度:50%

自然風景のみならず、市民活動や経済活動などあらゆる風景に映える社会基盤施設・設備を発見することで、土木分野への関心が醸成されることと学科広報や学生募集目的に、インフラ映えフォトコンテストを実施します。

2	同窓生との連携強化 【事務局 校友課】
---	-------------------------------

〔目標指標・数値〕総会参加数増加のための対策の実施、イベント、サービス等の実施(100周年)

建築学科記念フォーラム、50年の軌跡展参加者数400人

HUS pedia作成に向けた企業への取材25件(前年含)、冊子100冊作成

同窓会総会行事における若年層会員の参加者数減少の改善及び同窓生の本学へのニーズを把握し、学内に周知することを目的に実施した同窓生対象のアンケート結果をもとに、関係部署と施策の検討(課題調査や分析)を行います。

また、同窓生間の交流イベント実施(異業種間交流会など)やそれらの情報を発信するなどのサービスを行うことで同窓会活動の活性化を図ります。

3	ホームページ全面リニューアルによる大学知名度及び利便性の向上 【入試広報センター】
---	--

〔目標指標・数値〕2022年ホームページ公開

入試広報センターを中心に、最新のフレームを使用したビジュアル性、操作性が高いホームページを制作します。

また、導入後も各ページを検証できる仕掛け、ランニングコストの軽減、運用負担の軽減、時代背景に柔軟に対応できるようなシステムとします。

<重点実施施策>

学校法人北海道科学大学(2件)

1	学内外への発信強化、統一した広報展開 【事務局 総務部、入試・地域連携部】
---	--

〔目標指標・数値〕新聞100件以上、テレビ30件以上の掲載、日経BP調査における北科大の認知度を80%以上

学生及び教職員活動の様々な情報収集を拡大すると共に、多くの情報をメディア(大学プレスセンター含む)へプレスリリースします。認知度の向上については、キービジュアルを活用した広報を展開するとともに創設100周年を迎える本法人が北海道への貢献を行う姿を広報します。

2	100周年記念事業の推進 【100周年記念事業実行委員会】
---	--

〔目標指標・数値〕全ての教職員が何らかの周年事業に関わる(教職員の周年事業への参加度:100%)

「共に未来をつなぐ」をコンセプトとした100周年記念事業の実施により、学生・生徒、教職員、地域といったステークホルダーとの関係をより強固にするとともに、ブランド力の更なる向上を図るため、2022年度は現在進めている周年事業に加え、以下の事業を行います。

<実施予定の施策(新規)>

- ・100周年を契機とした法人全体のリブランディング(ブランド力の強化・再構築、キービジュアルと連動した広報展開)
- ・100周年記念会館(仮称:現在の図書館)の改修、展示空間の設計(デジタルアーカイブ含む)
- ・建物愛称企画(学生と共に、キャンパス内の空間・施設等に愛称を付ける)
- ・100周年特別学食メニューの展開 など

北海道科学大学(1件)

1	研究ブランディングの情報発信 【研究推進・地域連携センター】
---	---

〔目標指標・数値〕大学認知度向上 目標値 80%(日経BP)

私立大学研究ブランディング事業については、2019年度末にその期間が満了し、創出した成果や活動は既に報告書として文科省HP等で公開されています。その一方で、広く一般に向けた成果・活動報告会の場として予定していた道新共催のフォーラムがコロナ禍で開催できていないため、新聞記事広告に掲載する等、社会情勢に応じた案を検討します。

2.施設整備計画

主な工事計画は、以下のとおりです。

工 事 名	
＜北海道科学大学＞	
・図書館(100周年記念会館)改修工事	一式
・7、8号館エアコン設置費	一式
・サクラ新植工事	39本
＜北海道科学大学高等学校＞	
・高校校舎新築工事	一式
・ミニグラウンド造成工事等	一式
・グラウンド等改修工事	一式
＜北海道自動車学校＞	
・場内教習コース照明更新工事	一式

3.設備整備計画

(1)教育研究用機器備品

各設置校における教育研究充実のため、機器の更新及び機械器具を購入します。

購入数量	567点
------	------

主な購入品目は、以下のとおりです。

件 名	
<北海道科学大学> ・超音波画像診断装置 ・原子間力顕微鏡	1点 1点
<北海道科学大学高等学校> ・高校前田キャンパス 機器備品一式 ・高校前田キャンパス 電話設備	一式 一式
<北海道自動車学校> ・データサーバー	一式

(2)管理用機器備品

各設置校の機器の更新及び管理用備品を購入します。

購入数量	27点
------	-----

(3)図書等

各設置校の図書等を以下のとおり購入します。

設 置 校 名	図書	学術 雑誌	(冊)		
			電子ジ ャーナ ル	デー タ ベ ース	視 聴 覚 関 係
北海道科学大学	1,068	207	5,529	11	0

(4)車両

各設置校の車両を以下のとおり購入します。

<北海道自動車学校>	
・教習用自動二輪	2台

4. 学生生徒見込数

※2022年度予算編成人数

<北海道科学大学>

(学部)

学部名	学科名	入学定員	収容定員	学生数						
				1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
工学部	機械工学科	92	368	92	118	106	64			380
	情報工学科	90	360	90	84	95	98			367
	電気電子工学科	80	320	80	91	133	76			380
	建築学科	80	320	80	82	80	103			345
	都市環境学科	50	200	50	51	67	48			216
薬学部	薬学科	180	1,120	180	155	201	191	190	176	1,093
保健医療学部	看護学科	90	330	90	99	88	89			366
	理学療法学科	50	170	50	60	45	50			205
	義肢装具学科	30	180	30	39	30	25			124
	臨床工学科	70	280	70	79	74	75			298
	診療放射線学科	50	200	50	56	73	59			238
未来デザイン学部	メディアデザイン学科	80	320	80	82	103	101			366
	人間社会学科	50	200	50	52	56	64			222
計		992	4,368	992	1,048	1,151	1,043	190	176	4,600

(大学院)

研究科名	専攻名	入学定員	収容定員	学生数					
				1年	2年	3年	4年	計	
工学研究科	修士課程	機械工学専攻	5	10	5	3			8
		電気電子工学専攻	4	8	4	3			7
		情報工学専攻	4	8	4	0			4
		建築学専攻	4	8	4	5			9
		都市環境学専攻	4	8	4	0			4
	計	21	42	21	11			32	
	博士後期課程	工学専攻	6	18	6	0	2		8
		計	6	18	6	0	2		8
薬学研究科	博士課程	臨床薬学専攻	3	12	3	2	1	0	6
		計	3	12	3	2	1	0	6
保健医療学研究科	修士課程	看護学専攻	5	10	5	4			9
		リハビリテーション科学専攻	4	8	4	2			6
		医療技術学専攻	4	8	4	4			8
		計	13	26	13	10			23
	博士後期課程	保健医療学専攻	3	9	3	3	4		10
		計	3	9	3	3	4		10
計		46	107	46	26	7	0	79	

(専攻科)

専攻科名	入学定員	収容定員	学生数	
			1年	計
公衆衛生看護学専攻科	8	8	8	8
計	8	8	8	8

<北海道科学大学高等学校>

学科名	入学定員	収容定員	生徒数			
			1年	2年	3年	計
普通科	300	900	302	358	327	987
計	300	900	302	358	327	987

<北海道自動車学校>

科名	種別	教習時間	教習生数
本科 (公安委員会指定)	普通一種	34	1,300
	準中型	41	30
	大型特殊	12	25
	大型二輪	36	30
	普通二輪 (400cc以下)	19	70
	普通二輪限定 (125cc以下)	12	20
計			1,475

5.役員・評議員・教職員等の概要

(1) 役員・評議員 (2022年3月1日現在)

理事・監事・評議員の別	常勤・非常勤の別	人数	計
理 事 (兼評議員)	常 勤	8	14
	非 常 勤	6	
監 事	常 勤	1	3
	非 常 勤	2	
評 議 員	常 勤	14	22
	非 常 勤	8	
計			39

(2) 教職員 ※2022年度予算編成人数(事務職員は部門別配分前)

職 種		所 属	人数
教育系職員	教 員	北海道科学大学	241
		北海道科学大学高等学校	54
		北海道自動車学校	27
	技術員	北海道科学大学	3
		計	325
事務職員(契約職員を含む)		北海道科学大学(政策室、内部監査室を含む)	128
		北海道科学大学高等学校	12
		北海道自動車学校	7
		計	147
収益事業職員	薬剤師	北海道科学大学附属薬局	4
	事務員		3
			計
合 計			479



2024年・100周年

共に未来をつなぐ